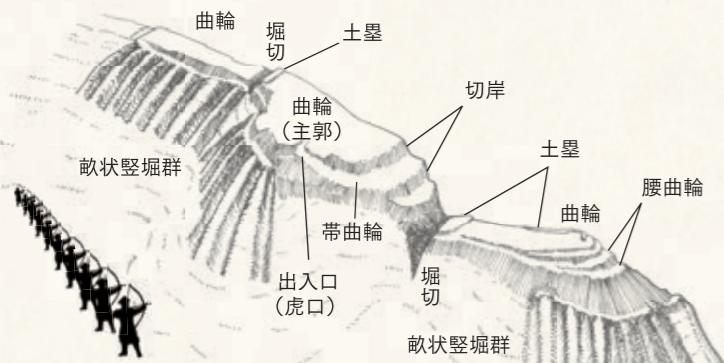


## 城館用語の解説

### 【城館の模式図】



### 【縄張り(なわぱり)】

城の基本設計で、曲輪、堀、土塁、出入口(虎口)などの遺構の配置や組み合わせのこと。

### 【曲輪・郭(くるわ)】

尾根や斜面を造成してつくった平坦地。中心となるものを主郭又は本曲輪(後の本丸)という。このほか、主郭を取り巻く細長い帯曲輪、主郭から下った場所に設けられた腰曲輪がある。

### 【切岸(きりぎし)】

敵の侵入をはばむため、曲輪周囲を人工的に切り崩した急崖。

### 【堀(ほり)】

城の防衛施設で、尾根を断ち切るように掘られた堀切、山の斜面に沿って掘られた豊堀、豊堀を連続して並べた畝状豊堀群、曲輪の周りを取り巻くように掘られた横堀がある。

### 【土塁(どりい)】

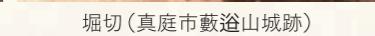
曲輪や堀の縁辺に土を盛つてつくった防御用の高まり。

### 【出入口(でいりぐち)・虎口(こぐち)】

城や曲輪の出入口。直線的、のぼり坂、屈曲した通路や門の前後の広場を組み合わせたものがある。



曲輪・切岸・土塁 (鏡野町城跡)



堀切 (真庭市敷造山城跡)

## 【備前国】城館関連の略年表

時代	西暦	元号	主なできごと
建武の新政	1333 1336	元弘 3 建武 3	鎌倉幕府が滅亡。建武の新政始まる。 後醍醐天皇方に敗れた足利尊氏が備前三石城を石橋和義に預け、追撃を防ぐ。 後醍醐天皇が吉野へ移る(南北朝分裂)。
南北朝時代	1338 1352 1365 1367 1427 1441	建武 5 文和元 貞治 4 貞治 6 応永 35 嘉吉 元	北朝、足利尊氏を征夷大将軍とする。 南朝方の山名時氏が備前・備中・美作に侵攻する。 このころから、播磨国守護赤松則祐が備前国守護を兼ねる。 このころ、浦上行景が赤松氏の守護代として備前国に進出する。 赤松満祐が播磨國・備前國・美作國守護になる。 赤松満祐が將軍足利義教を殺害し、幕府の討伐により滅亡(嘉吉の乱)。
室町時代	1467 1484	応仁 元 文明 16	山名教之が備前国守護、山名教清が美作国守護になる。 応仁の乱勃発。赤松政則が備前福岡城を攻撃し、山名氏から備前国を奪還。備前・美作国守護に復する。 松田元成が備前国を侵した備後国守護山名氏とともに守護代浦上基景・則国がたてこもる備前福岡城を攻め落とす。 山名氏が美作国・備前国・播磨國を制圧する。
戦国時代	1485 1488 1496 1519 1536 1552 1554 1567	文明 17 長享 2 明応 5 永正 16 天文 5 天文 21 天文 23 永禄 10	山名政豊が赤松政則勢と備前福岡・土師河原・砥石城で戦う。 赤松政則が備前国・美作国を復する。 播磨・備前・美作国守護赤松政則、病死。赤松家中が分裂し、数年にわたる内乱状態。 赤松義村が浦上村宗を討伐するため備前三石城を包囲。村宗が宇喜多能家の助力を得て赤松軍を撃退。 この年から天文8年にかけて、尼子氏が美作国・備前国・播磨國へ侵攻する。 尼子晴久が因幡国・伯耆国・出雲国・隱岐国・備前国・備中国・美作国・備後国の守護となる。 このころ、浦上政宗、宗景が対立。宗景が備前天神山城を本拠地にしたとされる。
安土桃山時代	1573 1575 1577 1579 1581 1582 1585 1590 1600	天正 元 天正 3 天正 5 天正 7 天正 9 天正 10 天正 13 天正 18 慶長 5	宇喜多直家が明禅寺合戦で三村元親ら備中衆を破る。 浦上宗景が織田信長から備前国・美作国・播磨國の支配権を安堵される。 宇喜多直家が備前天神山城を攻略し、浦上宗景を追放。 羽柴秀吉が中国征討のため播磨へ出陣する。 宇喜多直家が毛利氏と断交し、織田信長に帰属する。 毛利輝元が宇喜多方の備中忍山城を攻め落とす。このころ、宇喜多直家が病を再発し、ほどなく死去。 毛利・宇喜多方両軍が備前八浜で合戦し、宇喜多方家が討ち死にする。 羽柴秀吉が備中高松城を水攻めし、城主清水宗治が切腹。秀吉、毛利勢と講和を結ぶ。 水攻めの最中、本能寺の変が起こり、織田信長が死去。羽柴秀吉が山崎の合戦で明智光秀を討つ。 羽柴秀吉が毛利・宇喜多方の両国境界を定め、備中松山城を毛利方に、備前児島を宇喜多方に配分。 小田原征伐、秀吉による全国統一完成。 関ヶ原の合戦

【発行日】 平成27年1月

【発行・編集】 岡山県古代吉備文化財センター

〒701-0136岡山県岡山市北区西花尻1325-3

電話086-293-3211 FAX086-293-0142

<http://www.pref.okayama.jp/kyoiku/kodai/kodaik.htm>

※ホームページで岡山県中世城館跡総合調査の様子を公開中!

### ※注意事項

- 城館跡の多くは個人の所有地です。場所や季節によっては立入りが制限されていることがあります。見学に際しては、マナーを守って行動しましょう。
- 見学するときは、野外活動に適した服装を心がけ、十分に注意しましょう。
- クマ、イノシシ、マムシなどに気を付けましょう。
- 自分の位置を確認するため、方位磁石、地図やGPSなどの活用をおすすめします。
- 城館跡は貴重な文化財です。大切にしましょう。

再発見!ふるさとの山城 岡山県中世城館跡総合調査

# 攻略!おかやまの中世城館

第一巻 (備前国東部編)



吉井川沿いが一望できる保木城跡 (昭和55年発掘調査時)  
(岡山市東区瀬戸町万富、赤磐市徳富)

## ただいま調査中! 岡山県の中世城館跡

岡山県には中世(平安時代末期から安土桃山時代までの約420年間)に築かれた城や館の跡が1,068か所もあります。その数は、平成24年度の文化庁の統計によれば、全国で6番目に多く、所在地が不明な城館を含めると、1,400か所を超えるとも言われています。

中世は、源平合戦や南北朝の動乱などの争乱がたびたび起こり、社会的緊張が非常に高まった時代でした。特に応仁の乱以後、備前国、備中国、美作国の3国では、赤松・山名・細川・尼子・毛利、そして織田氏と、名だたる大名各氏が勢力を張って互いに霸権を競い合い、地域に根づいた浦上・宇喜多・松田・三村・新見氏などの領主も次第に争乱の渦に巻き込まれていきました。こうしたなかで地域支配や軍事・生活の拠点として築かれた城館跡は、まさに激動の時代を物語る貴重な文化財です。

岡山県古代吉備文化財センターでは、県内に所在する中世城館跡の保護と活用の基礎資料を得るために、平成25年度から7か年計画でその総合調査に取り組んでいます。この調査においては城館跡が築かれた場所や規模、防御施設の配置や構造、これらの保存状態などを現地で確認して記録するとともに、城館に関する文献史料や古絵図、地域に残る地名や伝承等も集めています。

このパンフレットは、今回の調査やこれまでの発掘成果などをもとに、県内の城館跡を地域ごとに紹介していきます。ふるさとに残る城館跡を知り、訪ねて、その歴史的価値や魅力を再発見してみましょう。

## ■備前・美作国境の堅固な山城

### 周匝城跡(茶臼山城跡・大仙山城跡) 【赤磐市周匝・草生】

吉井川と吉野川が合流する要衝を見下ろす茶臼山と大仙山に築かれた連郭式山城。茶臼山城跡は尾根筋に曲輪と堀切、斜面部に畝状豊堀群を巧みに配置し、守りを固めています。主郭の発掘調査では16世紀の遺構と遺物が見つかりました。また、隣接する大仙山城跡は土壘や横堀も備えており、発達した築城技術を目の当たりにできます。

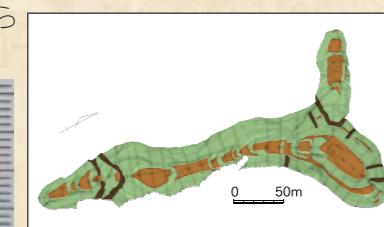
茶臼山城跡主郭の発掘調査の様子

## ■浦上氏の重臣・明石氏二代の居城

### 保木城跡

#### 【岡山市東区瀬戸町万富、赤磐市徳富】

吉井川下流域を見通せる標高181mの城山頂部に築かれた山城。発掘調査によって、Y字状の尾根上に大小18面の曲輪を連続させて礎石建物や掘立柱建物などを配置し、尾根を連続堀切で切断していることが分かりました(巻頭写真)。出土した室町時代後半の備前焼、鉄製品、鉄砲玉、約200kgの炭化した穀類(ムギ、イネ、アワ)などからは、戦国時代の暮らしぶりがうかがえます。

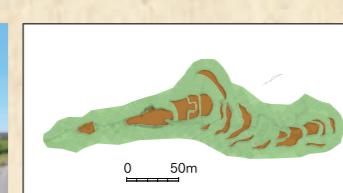


## ■『備前軍記』にみる宇喜多能家の居城

### 砥石城跡

#### 【瀬戸内市邑久町豊原】

千町平野を眼下に一望する砥石山に築いた連郭式山城。主郭から北側の尾根筋に大小の曲輪を10数面も配している一方で、山塊と尾根続きである南側には曲輪が1面しかなく、堀切も見られないなど対照的な防御構造を示します。



## ■浦上氏重臣・島村氏の居城か?

### 高取山城跡

#### 【岡山市東区長沼、瀬戸内市邑久町東谷】

山頂部に橢円形の主郭を構え、3方向に延びる尾根上に腰曲輪や犬走りを配する連郭式の山城で、各尾根の先端部には堀切があります。『備前軍記』によると、砥石城の宇喜多能家を自害させた島村豊後守の居城とも言われています。



# 備前国の中世城館を訪ねる(東部編)

応仁元年(1467年)に起こった応仁の乱以降、備前国では山名氏との抗争や内紛により守護赤松氏の領国支配が衰えを見せると、守護代の浦上氏が台頭はじめます。浦上氏は本拠を三石城に構えていましたが、宗景の代に天神山城へ移り、尼子氏、松田氏、毛利氏、三村氏らとの抗争をへて、備前国制覇を果たしました。

ところが、浦上氏の家臣であった宇喜多直家が、天正3年(1575年)に天神山城を攻略して宗景を追放した後、毛利氏との同盟を破棄して織田信長や羽柴秀吉に従い、備前国と美作国、備中国の一部を領有する有力大名に成長していきます。

今回は、県内の城館跡から、備前国で活躍した浦上氏や宇喜多氏にゆかりのある城館跡を選びすぐって紹介します。



## 備前国東部の主な合戦

- 【福岡合戦】文明15年(1483年)松田元成が山名俊豊とともに浦上則国がこもる福岡城を攻略。
- 【三石合戦】永正16年(1519年)赤松義村が浦上村宗を討伐するため、三石城を包囲するも撤退。
- 【天神山合戦】天正2～3年(1574～1575年)宇喜多直家が天神山城を攻略し、浦上宗景を追放。

## ■浦上宗景の本拠

### 天神山城跡

吉井川を眼下に望む急峻な天神山一帯に築かれた連郭式山城。天文23年(1554年)頃に浦上宗景が築いた本拠城で、城域は備前国随一の全長1km。尾根上に本丸、二の丸、三の丸を構え、石垣や堀切などで守っていました。さらに南北の斜面地にも複数の小曲輪を確認しています。天正3年(1575年)頃に宇喜多直家により落とされたこの城は、浦上一族の盛衰を象徴するような存在と言えます。



天神山城跡遠景

## ■秀麗な和気富士の頂を押さえた城

### 曾根城跡

吉井川が西に屈曲する場所の東岸にある「和気富士」山頂に築かれた山城。転在する巨岩を活用しながら曲輪を造成し、さらに主郭の全面には石垣を巡らせていました。尾根筋には曲輪を階段状に設け、主郭の背後には2条の堀切を掘削しています。天神山城の南方を押さえる拠点の城で、浦上宗景は宿老明石行雄の一族、景行を在番させました。



曾根城跡遠景

## ■『太平記』にも登場する、浦上氏代々の居城

### 三石城跡

南北朝時代の縄張りの特徴をとどめる一方、戦国時代末期に築造したと思われる石垣造りの虎口・小曲輪や畝状豊堀群が認められます。浦上宗景が天神山城へ移る天文23年(1554年)頃に廃城されたと考えられていますが、それ以降に改修が行われたことをうかがわせます。



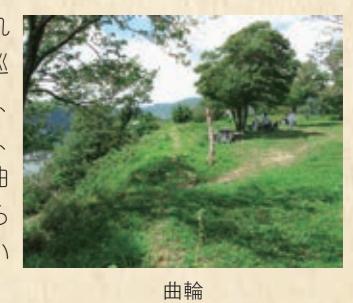
石垣造りの虎口

畝状豊堀群

## ■片上港を押さえる、浦上氏の城

### 富田松山城跡

片上湾を見下ろす山頂に築かれた山城。高さ約50cmの土壘を巡らせた主郭から東側尾根上には、2段の曲輪や豊堀状に続く堀切を、北及び西側斜面には幾重もの帯曲輪や櫓台を構えています。これらの曲輪には、石垣を部分的に築いている箇所が確認できます。



曲輪